

知恵の樹

No. 182 2014. 3. 19

町田の図書館活動を
すすめる会

事務局：町田市森野 3-1-12 増山方
〒194-0022 FAX 042-722-1243

ほんとうのさいわいとは —ひとりごつ エピゴーネン*—

自治労町田市図書館嘱託員労働組合執行委員長 前田 有美

2007年に発足した、自治労町田市図書館嘱託員労働組合。7年目を迎えた昨年10月、大きな出来事が起こった。結成当初から委員長を務めて下さっていた方が、その実力を買われ、母体である全日本自治団体労働組合の本部にスカウトされたのだ。次期委員長の席がぽっかりと空いた。空いてんねやったら座るかしらん。深く考えずにちょこんと座ってしまった。やってもうたと後悔すれど後のカーニバル。周囲の見る目が変わったような被害妄想に囚われ、髪の毛を金髪に染めてしまった若かりしあの頃をふと思ひ出す。本質は何も変わっていないのだ。ふにゃふにゃなのだ。出来れば部屋の押し入れに電気スタンドを引き入れてひねもすのたりのたりと本を読んでいたのだ…。そうしてばらりと頁を繰るは、ジョージ・オーウェルの『動物農場』。人間にこき使われた農場の動物たちが団結し反乱を起こし、平等な理想社会を建設しようとするという、現代の日本にも置き換えられる寓話的小説である。

まず、ふしぎな夢を見た老豚メジャーじいさんが、農場の動物たちを集めて演説をする場面から物語は動き出す。メジャーじいさんが見た夢とは、人間がこの世から消えてしまうという未来の夢であった。〈反乱〉あるのみ！と遺言したメジャーじいさんの跡を継ぐのは、後に独裁者と化す雄豚ナポレオンと権力闘争相手の雄豚スノーボール。ナポレオンの腹心である雄豚スキーラーや、そのスキーラーの過剰な宣伝を信じて疑わずにひたすら付和雷同する羊たち、「わしはもつとはたらくぞ！」をモットーとして働き続ける力持ちの雄馬ボクサーなど様々な役割を与えられた動物たちが登場する。

…嗚呼これは！雇用が不安定で、将来に対する唯ぼんやりとした不安を抱えながらも、好きな仕事だからと馬車馬のように働く我々は、文字通り雄馬ボクサーではあるまいか…！そのボクサーがどのような末路を迎えるのかというと、奇しくもメジャーじいさんが発言した、「かろうじて命をつないでいられるだけの食べ物を与えられ、最後の力がつきるまでむりやりはたらかされる。そして、つかえなくなったとたんに、むごたらしく殺されてしまう」という人間支配下における動物の一生を再現することとなるのである（しかもその真実は、スキーラーによって捻じ曲げられて他の動物たちに伝えられる）。悲惨としかいいようがない。涙で眼鏡が曇る。枕が濡れる。お池が出来る。

それでは動物たちはどのように行動すれば幸せになれたのかというと、無論明確な答えは書かれておらず、歩むべき道を見出すことは、我々読者に優しい語り口で乱暴に委ねられている。

何より避けたいのは、無知であるが故に何が起きているのか全く理解できない愚かな動物たちになることである。見聞を広げ、知識と知恵を身に付けるよう努めることが本当の幸いに繋がるのであろうか。からだなんか百ぺん灼いてもかまわない。

書を片手に(捨てられない)町へ出てみるとしよう。しかし晴れてはいるがまだ肌寒い3月は、花粉がばさばさと鼻腔を刺激し、思わず大きなクサメをした。

(鶴川駅前図書館)

<参考文献>ジョージ・オーウェル『動物農場』高島文夫訳(1974)／川端康雄訳(2009)

*ひとりごつ:ひとりごと／エピゴーネン:ある人の思想・学説などの流れを受け、それを単に模倣しているだけの人。追随者。亜流。

(新明解国語辞典より)

先頃よりマスコミで取り上げられている「アンネの日記」破損事件について、その概要と内在する図書館の問題について考えたい。

今回の事件は、昨年(2013年)中から、ユダヤ人少女アンネ・フランクの日記やそれに関する図書が、何者かによって意図的に破損されるというもので、報道によれば東京都内の公立図書館、横浜市立図書館、さらには書店にも被害が出たという。表現の自由に対する侵害行為である。また図書館は著者の表現の自由を守ることによって、利用者の知る権利を保障しており、両者は表裏一体の関係にある。ゆえに利用者の知る権利をも侵害する行為である。さらに公立図書館は、民主主義社会において主権者たる市民の自由な情報へのアクセスを保障し、それによって知る権利、学習権、参政権、文化的生活を送る権利など市民の基本的な人権も支えているのである。その観点からみれば、今回の事件は民主主義社会に対する重大な挑戦的侵害行為であり、絶対許してはならない。

ところで、各図書館がこの事件を受けて対策を採ったのであるが、それが誠に図書館の姿勢を表す結果となった。平成25年2月25日現在の東京都の調査結果によると、被害総数は区部では全223館中31館、被害冊数合計268冊、市部では全150館中7館、被害冊数合計40冊、町村・島嶼部13館は被害なし、という結果である。特に被害の大きかった図書館は、杉並区11館121冊、中野区5館54冊、練馬区9館41冊、新宿区3館40冊で、他に豊島区、武蔵野市、東久留米市、西東京市でも10数冊の被害があった。この様な状況を受けて各図書館は「アンネの日記」関連図書について①開架のまま②カウンター扱い③閉架へ移動、の3通りの対応が採られた。①「開架のまま」という対応は、被害にあっても、利用者の自由な資料へのアクセスを保障しようという考えの図書館と言える。②「カウンター扱い」は、従来の開架書架から、職員の目が届くカウンター近くに移動させ、利用者の利用に供しようという方法で

「アンネの日記」破損事件の意味

— 知る自由と試される図書館の姿勢 —

山口洋

ある。③「閉架へ移動」とは、それまで開架にあったものを閉架に移し、目録で検索したり、カウンターで利用要求を出した利用者にも提供する形で、資料の保護を最優先したのであろう。では、都内各図書館の対応の様子はどうかと言えば、①区部170館、市部123館、町村部2館、島嶼部5館。②区部50館、市部21館、町村部3館、島嶼部2館。③区部3館、市部6館、町村部0館、島嶼部0館。であった。この統計を見ると、多くの図書館が①の取り扱い方法を選択したのであり、被害を受けた杉並区や武蔵野市、東久留米市、西東京市は開架閲覧を堅持したのである。それに対して被害を受けた新宿区、中野区、豊島区は、②の対応をとった。但し、被害を受けた館は一館たりとも閉架移動(③の対応)を採っていない。むしろ、被害を受けていない図書館において、②や③の対応が採られた点が注視すべきであろう。②はまだ良いが、それでもカウンターで職員が目光るなか、破損で話題になっている本を何のストレス無く利用者が手に取れるだろうか？ましてや、被害すら無いのに閉架扱いを判断した図書館(中央区、清瀬市)では、利用者は「アンネの日記」を気楽に手に取れなくな

ってしまったのである。現場は苦肉の策で対応をしたのであるかもしれないが、市民としては、このような卑劣な犯罪であるからこそ、公立図書館には毅然とした態度で臨んでもらいたいのである。このような対応の違いは、なぜ起こってしまったのか？そもそも、誰の判断によって決まったのか？図書館ごとの違い(運営形態等)もあるだろうし、その考察は今後の課題である。

ちなみに町田市立図書館は、開架のまま、職員の巡回、返却時のチェックなど従来通りの活動で対応しているという。

この様な事件がまた起こることも考えられるが、その時のために、現場の司書は、公立図書館の本質に基づいて知る権利を尊重した判断を下せるようにして欲しいし、市民はその様な図書館や司書を支持し、決して図書館を孤立させてはならない。

(やまぐち ひろし 会員)

【館長報告事項】

1. 図書館協議会委員の退任 玉目委員が退任
2. 2013年第4回市議会定例会(図書館関係)
〈一般質問〉 宮坂けい子:雑誌スポンサー制度の導入について／市川勝斗:図書館事業について
〈質疑〉 池川友一:「図書館 IC タグシステム導入事業」

3. 教育委員会報告

・12月13日定例会

①「第三次町田市子ども読書活動推進計画策定委員会設置要綱」の一部改正について

②耐震補強工事に伴うさるびあ図書館の臨時休館について

③「2012年度 町田の図書館」の発行について

④鶴川駅前図書館の利用実績について

・1月10日定例会

①「2014年はたちに贈るこの1冊」配布について

②「赤川次郎展」の結果報告

③「遠藤周作『侍』展」の開催について

④「ことばらんど春夏秋冬」の刊行について

協議会委員の意見

「2014年はたちに贈るこの1冊」:女性の推薦者も入れて欲しい。和光大学の新生に薦める本を小冊子で配布する取り組みもあり参考になるのでは。

4. その他

①町田市子ども読書活動推進計画推進会議(2月14日)／協議会からは山口委員長が出席。

②嘱託員の採用について

2月13日面接、5名採用(欠員補充分)。(応募総数105名、一次試験受験95名)

③耐震工事の終了を受けて、さるびあ図書館のサービス再開／3月14日(金)10時より開館

④「第3回 まちだとしょかんこともまつり」の実施について／中央館、地域館の全館で実施。

⑤都内公立図書館における『アンネの日記』等の破損状況調査及びその対応／町田市は1日3回の巡回を実施、開館前、閉館後、返却時にチェック

【委員長報告】第1期生涯学習審議会(別途報告)

【協議事項】

1 図書館評価について／図書館評価の見直し

(評価項目など)を行い、新評価項目案が担当より提示された。案を持ち帰り次回協議会にて検討。

2 図書館視察の結果報告(感想)

11月、12月、1月と3回に亘って実施した図書館視察(中央館～全地域館、BM、ゆくのき学園)の感想を参加委員に述べてもらった。図書館サービスに対する評価とともに、各地域館の特色の良さを指摘する声が多かった。また職員の利用者に対する配慮やBMサービスに対する評価も高かった。なお、鶴川団地図書館の別室の活用法(子ども図書館にするなど)、金森図書館2階のスペースを活用した学校図書館との連携推進などの提案があった。また、鶴川駅前図書館では、新しい図書館として評価する一方、フロアの配置(NDC分類が順番に展開しない)などについて意見が出た。今回の見学の結果は、今後の協議会活動、外部評価において参考になる。

3 『新潮45』掲載記事における町田市立図書館の複本事情について／山口委員長より話題提供として、取り上げ、記事の内容を報告、館長に説明してもらった。

記事に関しては、執筆後、町田市立図書館に取材に来たとのことであるが、対談記事のためそのまま掲載された。記事内容は、公立図書館が大量に複本を購入し、それを貸し出すために出版社や著者の経済的損失が発生しているという批判の下りで、2002年11月7日にNHKクローズアップ現代「ベストセラーをめぐる攻防～作家 vs 図書館～」を引き合いに出して町田市市立図書館を批判するものであった。この問題では、図書館としても見解をHP上に出しており、近年では公立図書館の貸出が書店の売り上げに貢献するとの実証研究も報告されており、批判は的を得ていないのではないかと委員長の意見があった。協議会として今後とも動向を注視することになった。(山口 洋)

次回協議会:3月13日15時～17時。本来は第4木曜日ですが、「まちだとしょかん子どもまつり」開催期間にあたるため、早まりました。傍聴自由です。中央図書館6階ホールへお越しください。

講演会 市民にとって本当に望ましい図書館の姿

～図書館嘱託員は生き残れるか～

1

講師：上林陽治さん

於：2014年2月23日 15時～17時／町田市立中央図書館6Fホール

経営面から見る

上林陽治氏

公益財団法人地方自治総合研究所研究員。

09年『現代の図書館』に、図書館で働く人たちの非正規化の実態と問題点を執筆後図書館の非正規について研究をする。主に行政法、行政学、行政指導等について大学で教鞭をとる。行政学として市民自治に立脚した公共経営(人を雇って付加価値を高める)をテーマに研究。

著書に『非正規公務員という問題』(岩波ブックレット、2013年5月)、『非正規公務員』(日本評論社、2012年8月)、『公契約を考える 自治総研ブックレット9』(共編著、公人社、2010年3月)。

冒頭、こんなのは図書館ではないという図書館批判が普遍化して、ツタヤに委託させるのがおかしいという論争が市民の側から起こっているが、経営者から見るとなるほどこういう手があったかと思う、と行政学の視点から今話題の武雄市図書館について話された。

神奈川にも海老名市の図書館に指定管理者としてツタヤとTRCが組んで入ってきたからか、神奈川新聞が「公共置き去り？カフェ併設来館者3倍に」という極めて表面的なタイトルで、ツタヤが単独で運営する武雄の記事を賛否両論載せている。

年間30日余の休館日を全廃、開館時間延長などサービス増、貸出冊数1.6倍、アンケートによる満足度は利用者(4割が他市民)の8割が「大いに満足」など、数値に関心が集まる反面、児童本が子ども手に届かない書架にある、入り口の一等地は売り物の本で占められており公設運営にブックカフェ、来館者のうち、図書館資料を使って調べ物などをしていたのは20%にとどまり、書店やスタバだけを利用する人が大半を占めた(同県伊万里市：来館者数は武雄の半分以下だったものの、図書館資料の利用者は57%)、など、多数の現状を報告、蔵書の点検や整理に必要な休館日をなくし、事務室を最小限にまで削減するのは「商業施設」の発想だとして、社会教育としての使命を放棄している

〈町田市立図書館を利用されている皆さんは、いつも接している図書館員の多くが実は嘱託員であることをご存知でしょうか。これは町田に限ったことではなく、全国的にも公立(直営)図書館職員のほぼ半数が非正規職員であるとのデータもあります。「非正規公務員」の問題について造詣が深い上林陽治氏を講師にお迎えし、図書館の「人の問題」について考えます〉というお誘い文で、表記講演会を催した。

参加者は38名(会員11名・13名・他市民14名)。仕事で参加できなかった人もいたと思うが、会員以外の正規職員の姿が見られなかったのは残念である。

2時間に亘る講演の全容を多田美恵子さんが記録して下さったが、紙面の都合で割愛・編集して2度に分けてご報告する。

のではないかという市民の会の声も載せている。

行政学からみると、どうなのか

実は、図書館に対する行政の評価軸はなく、来館者数など客観的数値だけで評価をしてしまっている。

指定管理者制度に詳しい神奈川大学南特任教授は、「3.2倍に増えた武雄の来館者数には、スタバやレンタル店だけの利用者も含まれている。来館者が多ければそれで良いのか、ということが問われていない。

何をその事業のミッションとすべきかが自治体の中で明確化されていないと、指定管理者に対する評価もできない。行政は本来、できるだけ専門知識を取り入れて調整すべき立場なのに、現状は民間への丸投げばかりだと、行政の“劣化”を指摘する。その通りで民間への丸投げが目立つ。

経費の節減のみという結果になるが、逆に経費節減ができたならOKなのか。武雄については“賑わい”においては成功である。賑わいというのは地方で街づくり行政を実施、何とかしようと考えている人にとっては最も追求されている価値である。武雄市は本力ではなく摩天楼の力、都会の空気感で賑わいを実現した、といえる。

これは、武雄の図書館の問題なのか、武雄市の

問題なのか、民営化指定管理者の問題なのか、ないまぜにしてしまって、全てをツタヤの責任にしているのではないだろうか。

ツタヤが参入して予算上どのように変わったのかを2012年度・13年度から探ってみる。

- 大きく変わった図書館費:1億2千万→1億5千万に増。

- 指定管理料:1億1千万増。指定管理料捻出のために、給料5千100万→1千300万にまで減。

- 正規職員2→1(正規職員の1人は歴史資料館直営のため学芸員として勤務)、嘱託職員18人→2人(減16人の内13人はツタヤの契約社員として雇用)。

合計すると、全体で8570万の削減となっている。

- 図書購入はツタヤではなく地元の書店から購入、ツタヤに売上は入らない。

- 雇用はまるまるツタヤに流れている。

今まで多くの自治体は指定管理・委託に出せば経費が削減できるという観点だったが、武雄市はそうではない。

時給の雇用を契約社員とすると若干でも給料は上がる。公租公課について指定管理、委託に出すと消費税を支払わなければならない。

つまり外に出したとたん指定管理料1億1000万円に5%の消費税がかかる。ツタヤが運営することによる連絡費用、会議費用等がかかり、ツタヤに実質入る金額は、そのうちの5パーセントにすぎない。ツタヤのある営業マンは「4館取らないと儲けは出ない。本社経営費を20%にしないと赤字だ」と、と

んでもない物を押し付けられたと感じているようだ。そのため、何としてもあと3館欲しいところだろう。現在、宮城県多賀城市や山口県周南市も選定の方針を打ち出している

ツタヤが入ってくる前に武雄市の図書館はどのような状態だったのか、図書館の歴史を紐解きながら、説明する。

ツタヤ以前の武雄市立図書館

市でありながら、町村立図書館レベルの図書館であったといえる。

1994年までは、平均の2倍以上の奉仕人口を抱え、嘱託職員も活用していない。

1995年に専任職員1人増、96年に予算額が2倍強に増大して、ようやく蔵書をそろえ始め、図書館として歩みはじめたという非常に歴史が浅い図書館といえる。1999年にさらに予算は倍増。この頃から、武雄市は図書館行政といえる動きを始めた。2000年に歴史資料館を併設してから登録者も貸出冊数も急増。同じ規模の人口、図書館に比べて、専任職員が上回って配置されたのは、歴史資料館創設時の2000年から2003年にかけての4年間だけで、蔵書数は1998年までは2分の1にも満たず、平均を超えたのは、合併前の3年間(2003年～2005年)だけである。購入図書冊数が平均を上回るのは、2001年になってからであるが、2006年の市町村合併で人口が3万5千人から5万3千人に増大して以降標準的段階に到達できていない。登録率と貸出冊数は順調に伸張し、2012年は登録率71.0%、貸出冊数は人口100人当たり665冊

と多い。しかし職員体制・規模は変わらず年収200万円に届かない「常勤的非常勤職員」である嘱託職員に依存。登録と貸出に躍起になり、それを少数の専任職員と年収200万円以下の常勤的非常勤職員が担ってきた。

	2012年度(千円)	2013年度(千円)	増減(千円)	備考
図書館費	124,795	153,113	28,318	
給料	51,721	13,858	▲37,863	正規職員2→1、嘱託職員18→2 ▲85,700
職員手当等	9,631	4,815	▲4,816	正規職員2→1、嘱託職員18→2
共済費	4,318	2,718	▲1,600	正規職員2→1
賃金	2,106	592	▲1,514	正規職員2→1
報償費	576	213	▲363	図書館関係講座謝礼金等
旅費	977	2,054	1,077	
需用費	17,024	4,881	▲12,143	光熱水費
役務費	2,267	5,639	3,372	
委託料	21,266	114,019	92,753	指定管理料110,000千円増、清掃、警備、保守点検委託料▲17,000千円
備品購入費	14,152	3,388	▲10,764	図書購入費▲13,000千円

注)2012年度ならびに2013年度当初予算の図書館費から転記。
ただし、主要費目のみ。合計とは合わない。

展示や図書館活動を進める余力はなかった。

20年かけて標準的な図書館に追いつこうとしてきた。しかし、購入図書、予算額、決算額の推移をみると標準的な同じ規模の図書館よりも多く支出したり購入したりしている。

ツタヤ以降の武雄図書館の状態

館長は、歴代小中学校の元校長である。現在の館長は2009年から武雄市の嘱託職員として館長をやっている。2013年からツタヤの契約社員として館長になった。司書は13人で元は全員市の嘱託職員。その他スタッフはツタヤの社員が7人(スタバ3人、図書館4人)、図書館アルバイト(書店含み23人)、スタバ18人。元嘱託職員であった人もローテーションでツタヤ経営の書店で本の販売している。

武雄市図書館の人員がそのままツタヤ運営に移ったといえる。

図書館業務が初めてという負の側面は免れないが、それ以前に武雄市の図書館行政水準がそのまま移行したと見るべきではないか。ツタヤとしては行政をそのまま引き受けるとひどいことになる(なった)、ということで、海老名の図書館委託では運営専門会社TRCと組む選択をした。

宮城県多賀城市でもツタヤが進出したが、やはりTRCと組んだ。今後、ツタヤが選択するのはTRCとジョイントを組んで進出していくということになるだろう。ツタヤ自身は図書館のディスプレイに特化する、というやり方に進むのではと思われる。

「図書館を街づくりのシンボルに！」

武雄の樋渡市長は、図書館を“にぎわい”のシンボルにして売り出すことを戦略とし、旭川動物公園、金沢美術館と相互連携するということをはじめた。もしかしたら現在の公共図書館は付加価値をつける体力を失っているのではないかと。貸出と登録者数を増やすという現状維持につとめるしか体力がないのではないかと。

非正規化問題

公共図書館が体力を失ってしまった原因の一つに非正規化がある。その推移を見てみると、

図書館専任職員のピークが98年で専任職員はどんどん減少、この間図書館数は増え続け3214館に。それを臨時・非常勤職員が埋めてい

	図書館数	専任職員	臨時・非常勤職員	
1991	1995館	13631人	3345人 専任体制	(市区立) 2456人
1998		15429人		
2001			10992人	
2012	3214館	11579人	15790人	13063人

った。91年の時点での臨時・非常勤職員は、専任体制であった。その後増え続け20年間で約3倍となっている。特に市区立図書館は2456人から、13063人と5倍強と顕著である。

専任職員と臨時非常勤の割合は、91年には8:2だったものが2001年には6:4に、06年には5:5、12年には4:6と、今や公共図書館で働く人は6割が臨時・非常勤である。また委託、派遣職員は館長を除きほとんどがパートである。2012年では、7割が臨時・非常勤労働者である。

これを、総務省『労働力調査』「長期時系列表9 雇用形態別雇用者数－全国」の全産業と比較してみると91年には他産業と図書館の正規・非正規も8:2で変わらなかったものが、2003年で7:3。12年かかり割合が10パーセント変化するというのが民間だが、図書館は加速度的に非正規の割合を増やしていったといえる。

特に東京の非正規割合は高く(12年でみると)都立図書館では87:13で専任体制がそれなりだが、23区を見ると正規が2割、非正規が8割。この8割という数字はスーパーマーケット(パートに依存し成り立っている)とほぼ一緒である。

市部の町田市を見ると委託派遣は出さず、専任職員は66人(うち司書は39人)、臨時・非常勤が111人(常勤換算したもの)。割合で見ると37:62.7でほぼ4:6である。

市部地域全体で見ると専任718人、臨時・非常勤1082人、委託・派遣141人、割合は37:63になる。

★図書館は非正規公務員、非正規労働者を構造的にはめこんだ公共サービスをしている段階である。(つづく)



(文責:増山)

自治労町田市図書館嘱託員労働組合 第7回定期大会開催

於:2014年1月16日 18:30～ 町田市立中央図書館 6階ホール

今回の定期大会は、当初、昨年(2013年)の11月末に予定されていたが、野角委員長が10月1日付で自治労本部の中央執行委員組織拡大局長に就任したために、新執行部の選出に時間がかかり年を越しての開催となった。出席者77名・委任状7名の計84名により大会は成立、式次第にそって手際よく進んだ。

新執行委員長に前田有美さん(鶴川駅前図書館)、副執行委員長に野口友子さん(中央図書館)・酒井香織さん(文学館)、書記長に鈴木恵さん(鶴川図書館)、他19名の役員体制で、3分の2程が新任である。なお、特別執行委員として六分会協議会から手嶋さん(さるびあ図書館)と自治労の野角さ

んほか3名が入っている。議案集の裏に

「組合に入るってどういうこと?とと思っているみなさんへ」(2007年11月8日付)、という結成された時の呼び掛け文が印刷されていますが、このことを何度となく役員の方たちは思われ、尽力されてきたのではないのでしょうか?大会が遅れたこともあるかもしれませんが、参加する人たちが少しずつ減っている感じがしたのは私だけではないでしょう。

日々市民は感謝しながら図書館を利用していますし、すすめる会も微力ながら市民の図書館はどうあったら良いのかを考えています。

どうか組合員は組合の大会には何をおいても参加し、その団結する姿を見せて欲しいと会場で思いました。(代理出席 玉目 哲廉)

第6回町田市子ども読書活動推進計画推進会議

2月14日(金)10:00～12:00

於:中央図書館ホール

2013年度2回目の表記の会が行われました。

推進会議委員は、14名(公立小・中校長会代表、公立小・中PTA連絡会代表、幼稚園・保育園協会代表、図書館関係ボランティア・学校図書館指導員、図書館協議会代表、子ども生活部子育て支援課・児童青少年課、学校教育総務課・指導課、生涯学習部図書館長)。任期は2013年8月～2年間。

委嘱状が各委員に渡され、館長より、「第〇次…、〇回」という数え方を、冠をとり推進会議そのものを通して数えていくという「推進会議設置要綱」を改定した旨の話があった。自己紹介後、委員長・副委員長の選任。第二次活動推進計画の2013年度の主な取り組み(下記)について各課より報告を受け話し合われた。

指導課:校長、学校図書館担当教員、図書館、文学館のメンバーで「学校図書館充実ハンドブック」を作成/読書指導の充実/図書指導員活動を充実(年間35週・週5日)/新任教諭への図書館研修。

子育て支援課:「マイ保育園」構想(かかりつけ窓口に登録・在宅で保育をする人をサポート、0歳新規登録者に絵本をプレゼント、各地域に公立保育園と地域子育て支援センターを配置)。

児童青少年課:子どもセンターでは読み聞かせが行われている。1月には「ただON」がオープンした。

教育総務課:学校図書館の標準冊数達成を目指す。

図書館:第三次推進計画策定委員会(部長構成)・作業部会(関係各課)を立ち上げ、たたき台作成中。(増)

第26回多摩文庫展へ行ってきました!

「子どもと本の広場～本の世界であそぼう」

2014年2月22日(土)～26日(水)

於:永山公民館 ベルブ永山

会期中の原画展は『ねこのピート』
作/エリック・リトウイン 絵/ジェームス・ディーン
訳/大友剛 文字画/長谷川義史

多摩の文庫連がずっとテーマとしている「平和」の本のコーナーから、ギャラリーのジェームス・ディーンさんの原画展を観ました。黄色と青を基調とした明るいアクリル画に元気が出ました。ちょっとゴッホの影響があるのかな。絵本、青ねこのピートシリーズはアメリカで大人気だとか。日本では大友剛(通称タケちゃん)さんの訳で文字は長谷川義史さんが書いています。

講座室では毎回、近くの保育園から数十人の園児が訪れて満席、タケちゃんの読み聞かせと音楽で盛り上がりました。

タケちゃんは日頃から、読み聞かせ&音楽で多摩の保育園児と大の仲良しだそうです。読み手と聞き手の掛け合いがとっても楽しい時間をすごしてきました。

多摩文庫連の皆さまの地道な活動に頭が下がります。どうか、これからも素晴らしい活動を続けて下さいね。(多田美恵子)



ひろば

2/12(水)12:00～181号印刷(伊・玉・丸・増)

定例会 2/19(水)

・18:00～20:00 中央図書館中集會室

出席: 石井、清水、多田、玉目、手嶋、増山、丸岡、目黒、山口

- 会報: 巻頭言を新嘱託労組執行委員長の前田さんに依頼(p1)、他、記事内容を検討。
- 上林陽治さん講演会/2/23(日): 上林さんが作成したレジュメを手嶋さんが受取り、当日講演会前にコピーをする。当日の準備、集合、設営等役割分担をする。講演会后、懇親会を予定。(p4)
- 岡山図書館見学/3/13～14(木～金): 現在 10名参加申込。県立等4館ほど見学したいが田井さんが入試期間中で多忙のため、コースは未定。岡山の人と懇親会を予定。現地への土産は参加者で折半。宿、交通は手嶋さんが手配。

3回 まちだとしょかん子どもまつり 一本はともだちー 3/27木～30日 町田市立図書館全館で開催!

子どもと本、子どもと図書館、人と人がつながって、図書館を日常生活の中に! 出会いや交流の拠点に! 今年も市民と図書館協働での図書館まつりです。期間中、子ども向けお話会や、大人も楽しめるイベントがたくさん。ぜひご家族でお近くの図書館まつりへご参加ください。

📖 **文学館** 絵本で国際交流 29日(土)10:30～12:30
町田市で学ぶ留学生たちが、ご自分の国の絵本を母語で読んで、異文化を楽しむ交流会です。

📖 **中央図書館6Fホール**
・「みんなで楽しむ わらべ唄あそび」28日(金)11:00～12:00
講師: 柚山明子さん(たんぼぼの会主宰)

リズムに合わせて子どもたちと一緒に心とからだを動かしましょう!
・講演と落語「オタマジャクシとカエルのおはなし」29日(土) 13:30～
講師: 裏戸秀幸さん(水生昆虫研究家・落語家)
講義のあとには、楽しい落語

● **講演会「どの本読もうかな?」** 30日(日) 10:30～ (¥500)
講師: 広瀬恒子さん(親地連代表)

2013年度、児童書新刊本お勧めの本の紹介
町田の図書館活動をすすめる会

・**ビブリオバトル** 30日(日) 13:30～
「人を通して本を知る. 本を通して人を知る」本の紹介コミュニケーションゲームです。あなたの読みたい本がきっと見つかるでしょう! 中学生・高校生・成人、がチャレンジします!

2014年度 第12回 文学館(主催)で楽しむ

おとなのためのおはなし会

3月20日(木)10:30～11:30

町田市民文学館 2F大会議室

プログラム (通算 83回)

- * 町田ゆかりの作家「遠藤周作」 大澤里子
- * だんまりくらべ(トルコの昔話) 丸岡和代
- * 山にさらわれたひとの娘(ウエルダール作) 梅谷信子
語り手はNPOまちだ語り手の会会員

直接会場へどうぞ! 無料 保育有

(町田市民文学館 ☎042-739-3420)

- 浪江虔・八重子往復書簡集/ポット出版との話し合いで、本の価格と引き受ける部数が 3,200円 200冊から、2,400円 300冊に変更になった。出版日が決定したら、事前申し込みの段取りをとる。
- 図書館協議会/図書館視察があった。10月の教育プランのパブリックコメント概要版を見ると、学校図書館についての意見が多い。学校図書館の職員配置、十分な図書スペースの確保、図書館学習の授業が出来る教員が必要、など。

- 日本図書館大会東京大会/10月末から11月上旬予定。図友連を主体に市民による分科会を予定している。

- 子ども読書推進会議/関係部署が縦割りの流れで動いており、少しずつ変わってきているが、なかなか横の連携が密にならない。生涯学習部と子ども生活部は業務が重なる範囲で連携すると生涯学習部長は言ったが、そうすると今度は責任の所在が曖昧になるのではという意見も出た。(p7)

あとがき

2月23日、投票率41%という、市民の関心のなさを示す市長・市議選が終わった。初めて、チラシのポスティングやポスター貼り、駅頭ビラ配りなどの支援活動をしたが、何ともおなしだけが残っている。突如、犯人が近所に逃げ込んだという情報が流れると、自分の事として関心を示し、身を守るために誰もが行動を起こす。だが、徐々に社会に浸透し自分たちの首をもしめつけない政治の世界の情報に、全く無関心な市民が多いことに驚かされた。選挙の1票の重みを、どうやれば、伝えられるのだろう。火の粉が見えてからでは遅いものになあ。(M4)